グアテマラ月報（２０２６年８月）

２０２６年９月

在グアテマラ日本国大使館

《ポイント》

●共和国議会は、港湾の運営を近代化し、施設の保安体制強化を図る法的枠組みを新たに定めた、全国港湾制度法を可決した。投資を促進し、物流の改善と対外貿易の競争力向上が期待される。

●２０２３年に活動停止処分を受けた「種の運動党」の創設メンバーである、オランテス環境・天然資源大臣が辞任し、２０２４年４月の大臣就任時まで議席を有した、共和国議会議員の職務に復帰。

●アレバロ大統領が米国から送還されたメキシコ国籍の移民を一時的に受け入れていると言及。グアテマラ国籍の帰還移民と同じ航空便で到着し、通過資格で入国する旨説明した。

●グアテマラ中央銀行は、２０２６年７月期に、外国からの送金額が２４億６,８６０万米ドルとなり、月間の送金額としては、過去最高額を記録したと発表。また、２０２６年の経済成長率見通しを４.１%から４.３%に上方修正した。外国からの送金額が増大し、民間消費が堅調であることに加え、官民の投資増加と輸出の好調が要因とされる。

●信用格付会社ムーディーズが、当国の債務残高は中南米地域で最も低い水準にあり、２０１９年から２０２５年にかけての増加も対 GDP 比で１ポイントに留まる状況を評価する旨発表。３.５%を超える経済成長によって債務は制御され、慎重な財政運営であると説明。

●気象庁は、８月から１０月の四半期予報を発表し、例年比で降雨量が３分の１減少し、気温が上昇、本年後期における熱帯低気圧の発生確率低下が見込まれる。エルニーニョ現象が少なくとも２０２７年中期まで継続する可能性が極めて高いと予測した。トウモロコシや豆類の収穫量低下と電力供給における火力発電への依存の高まりが懸念される。

《本文》

１　内政

（１）経済省及びエネルギー鉱山省の次官交代

１日、経済省は、バレリア・プラド経済次官（投資・競争担当）が辞任、大統領府の顧問に就任して政府の戦略的かつ優先的なプロジェクトを推進すると発表した。

４日、エネルギー鉱山省は、８月１日付で辞任した、アルトゥーロ・メリダ前エネルギー担当次官の後任としてフランシスコ・ツィリン・ホチョラ氏がエネルギー担当次官に就任する旨発表。同氏は国家電力公社（INDE）で発電・送電・配電の各分野の要職を歴任し、電力・エネルギー分野で約３０年の経歴を有する。

（2）全国港湾制度法の成立

５日、共和国議会は、全国港湾制度法を可決した。同法は、港湾の運営を近代化し、施設の保安体制強化を図る法的枠組みを新たに定めるものであり、投資を促進し、物流の改善と対外貿易の競争力向上が期待される。

（3）緑の党の党名変更

９日、緑の党は、グアテマラ市内で臨時党大会を開催し、党名を「カリダ党（Partido Calidad）」に変更した。これは、緑の党が定めた政党の標章及びシンボルカラー（色彩）に対して、国民希望党議員が同党のものと類似していると告訴し、党名及び標章、色彩の変更を命じる判決を受けた措置である。緑の党（現カリダ党）は、国民希望党を離反した元議員が創設した政党である。

（4）環境・天然資源大臣の交代

９月１日、政府は、アナ・パトリシア・オランテス環境・天然資源大臣が大臣職を辞任し、後任として、エドウィン・ホスエ・カステジャーノス環境・天然資源次官（天然資源・気候変動担当）を新任大臣に昇任させた旨発表した。オランテス前大臣は、２０２３年に活動停止処分を受けた「種の運動党」の全国比例代表リスト第２位の候補者として２０２３年総選挙で当選した与党議員であり、２０２４年４月の大臣就任時まで議席を有した、共和国議会議員の職務に復帰する。

２　外交

米国から送還されたメキシコ国籍移民の受入れ

１９日、アレバロ大統領は定期記者会見において、米国から送還されたメキシコ国籍移民を一時的に受け入れていることに言及。グアテマラ国籍の帰還移民と同じ航空便で到着し、通過資格で入国する旨説明した。政府は、到着から２４時間以内に、メキシコ国籍の帰還移民をメキシコへ出国させる手続きをメキシコ移民当局と調整している。本年は、これまでに2,２８４名のメキシコ国籍移民がグアテマラに到着している。

３　経済

（1）トウモロコシ輸入枠の拡大

５日、経済省は、５万トンのトウモロコシの追加輸入枠を認めた。既存の承認枠では、６万５千トンの輸入が認められていたが、当該枠分が枯渇することから、年内の供給を確保することにより、最終消費者価格の上昇を防ぎ、食品の不足を避けることがこの措置の目的であると説明した。

（2）外国からの送金が過去最高額を記録

6日、中央銀行は、2026年7月期に、外国からの送金額が24億6,860万米ドルとなり、月間の送金額としては、過去最高額を記録したと発表。背景にある主な要因としては、米国内では移民政策をめぐる不確実性の増大、国外追放の脅威によって、在米グアテマラ人が予防策として送金頻度を増やしていることが挙げられる。中央銀行の発表によると、送金の流入は為替レートを安定させ、外貨準備高を増やすことでマクロ経済の強さに寄与している。さらに、この流入が、食料、住居、教育、小規模ビジネス等への直接消費に結びつくため、民間消費の原動力となっている。一方で、専門家は、移民政策をめぐる不透明感、特に米国内における就労状況の脆弱性を指摘し、海外からの送金に対する過度な依存が、国の将来の経済にとってプラスの要素ではないと強調した。

（3）経済成長率見通しの上方修正

21日、中央銀行・金融委員会は、2026年の実質 GDP 成長率の見通しを、当初の4.1%から4.3%に上方修正した。外国からの送金額が増大し、民間消費が堅調であることに加え、官民の投資増加と輸出の好調が要因とされる。燃料価格の上昇にもかかわらず、建設業及び製造業が力強さを見せていると評価した。一方で、野菜・果物等農産品の輸出では、鈍化が見られる。

（4）ムーディーズによる財政運営への指摘

4日、信用格付会社ムーディーズが、当国の債務残高は中南米地域で最も低い水準にあり、2019年から2025年にかけての増加も対 GDP 比で1ポイントに留まる状況を評価する旨発表。3.5%を超える経済成長によって債務は制御され、慎重な財政運営であると説明した。一方で、政府の歳出予算の約90%が人件費や法的義務のある拠出金に充てられており、硬直性の高さを課題として指摘した。

（5）コーヒー輸出量の増加

7日、全国コーヒー協会（Anacafé）は、グアテマラのコーヒー栽培に関する会議の開会式において、同産業の現状と今後の見通しについて発表した。7月時点のコーヒー輸出量が暫定値で約17万7千トン（385万キンタル）となり、既に2024-25年期の総量約17万2千トン（373万キンタル）を上回ったと公表。今期の輸出量は最終的に約18万9千トン（410万キンタル）に達する見通しである。グアテマラ産コーヒーは品質面の評価により、海外において優位な価格を維持している。当国のコーヒー栽培は、12万5千世帯を超える生産者が関わり、50万人以上の直接雇用を創出する主要産業の一つである。

4 その他

（1）フエゴ火山の噴火

3日、気象庁は、フエゴ火山が噴火し、火砕流が複数の渓谷に繰り返し流下していると発表。

噴火活動が最も激しい段階にあることを公表し、チマルテナンゴ県、サカテペケス県、エスクイントラ県において緊急時対応を維持するよう勧告した。この噴火により、3県に警報が発令された。同時期に太平洋沖で地震が連続して観測されたが、気象庁は両現象の関連について否定している。5日、気象庁は、同噴火の終息を発表した。

（2）エルニーニョ現象による旱魃の深刻化

27日、気象庁は、8月から10月の四半期予報を発表。エルニーニョ現象が少なくとも2027年中期まで継続する可能性が極めて高いと予測した。例年に比べて降雨量が3分の1減少し、気温が上昇、本年後期における熱帯低気圧の発生確率低下を見込んでいる。

本年7月の降雨量の記録は平年を下回り、雨季の遅れと7月の降水量不足により、国土の約12%が既に深刻な旱魃に見舞われている。長期に亘り降水がなかった地域では、河川流量が減少、作物の灌漑に悪影響を及ぼし、より広範囲に極度の旱魃が継続した場合、トウモロコシや豆類の収穫が危惧されるため、多くの農家が作付けを中止する等、収穫量低下の懸念が広がっている。

（3）旱魃による水力発電量の減少、火力発電への依存が高まる

10日付のラ・オラ紙によると、国家電力委員会（CNEE）が、電力公社（INDE）、再生可能エネルギー発電事業者協会（AGER）と共同で、グアテマラのエネルギー安全保障に関する提言を発表。エルニーニョ現象に伴う降水量の減少によって河川水量が低下、水力発電量が減少している。8月5日時点で、国内発電量の約46%が蒸気火力発電所によるものであり、水資源の利用低下を示しているため、火力発電への依存リスク増大の警鐘を鳴らし、再生可能エネルギーの導入、河川流域の保全、バッテリー貯蔵システムの使用等、エネルギー安全保障を強化するための対策を加速する必要性を指摘した。

《経済指標》

◇主要経済指標◇	2026年 8月	2026年 7月	2026年 6月	2025年	2024年
インフレ率（前年同月比）	3.37%	2.70%	2.27%	1.65%	2.87%
貿易収支（百万ドル）	未公表	△2,143.8	△1,863.2	△19,018.5	△17,935.2
輸出（百万ドル）	未公表	1,468.7	1,429.1	15,592.6	14,556.3
輸入（百万ドル）	未公表	3,612.5	3,292.3	34,611.1	32,491.5
外貨準備高（百万ドル）	33,489.6	33,374.8	32,796.3	32,736.8	24,421.6
外国からの送金（百万ドル）	2,327.7	2,468.6	2,325.5	25,530.2	21,510.2
為替レート（対ドル月平均）	7.62	7.62	7.62	7.68	7.76